



神奈川県逗子市の「リビエラ逗子マリーナ」内に隣接し、その先に江の島・さらなる活性化を目指して計画されたホテル&レストラン。敷地内にはヨットハーバーやレストラン、イベント会場、リゾートホテルとしてリビエラ、リゾートマンションなど、リビエラを生ま出す施設が求められた。そこで、緩やかにさまざまな居場所がつながるヒューマンスケールで自然を感じる建築空間づくり、そして大きな水盤の挿入によりハーバーと連続する新たな水辺風景を生むことで、人々を誘い込む場の創出を目指した。

レストランはヤシ並木に面しにぎわいの顔を通りにのぞかせる半面、

自然を享受するスモールラグジュアリーホテル

concept View

マリブホテル

ゆったりと静かに時を過せるテラス空間が水盤や緑の隙間に場をつなげながら連続する。また切り妻屋根によって軒高を抑え空の広がり確保しつつも、内部には高天井の空間を獲得している。さらに水盤に面する正面の大きな開口部には全開可能なサッシを採用し、テラス席と内部が一体となるしつらえとした。

ホテルはレストランと軸を変え、正面を江の島と富士山方向に向けた配置となる。全面サッシと奥行きのあるバルコニーにより、水平強調の広がりのある開放的なたたずまいとなっている。50平方メートル以上の客室は、間口7メートルの開放的な室や、手前と奥で眺望の視覚変化を生むスリットフロア型など、さまざまなバリエーションをもつ。1階客室はあえて外部からの

レストラン内部



【建物名】マリブホテル
 【所在地】神奈川県逗子市小坪5の23の16（リビエラ逗子マリーナ内）
 【建築主】リビエラ
 【用途】ホテル・レストラン
 【設計・監理】久米設計
 【施工】大洋建設
 【規模・構造】S造地上4階建て延べ1444㎡（客室数11室）
 【工期】2019年3月～20年2月

(写真©Koji Fujii/TOREAL)

アプローチとし、大きなテラスや外部的なインテリアにより自然を近くに感じるしつらえとしている。この建築と水盤により敷地全体の一体性が生まれ、さまざまな居場所や風景の中で逗子の雄大な自然を心地よく感じたい。

新たに挿入された水盤は、既存施設とホテルとの間に適度な距離感を生みホテルのプライベート性を保つとともに、それら既存施設への新たなアプローチ空間に印象的なシークエンス（景色の変化）を創出している。

久米設計

設計本部建築設計部

主管 小野田環
 主査 齊藤拓臣

